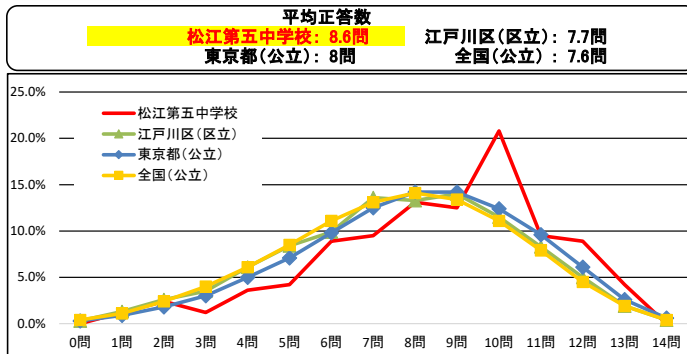


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】松江第五中学校

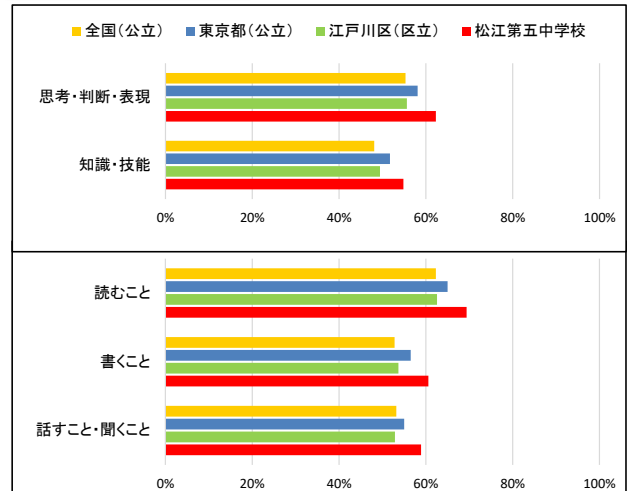
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

松江第五中学校	61%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	4.0

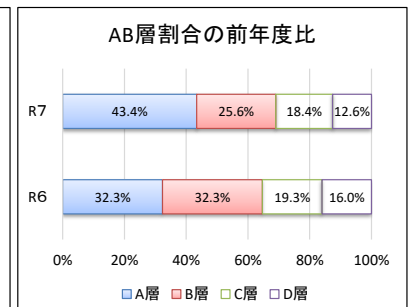
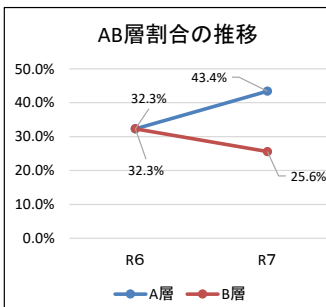
「領域別」の結果



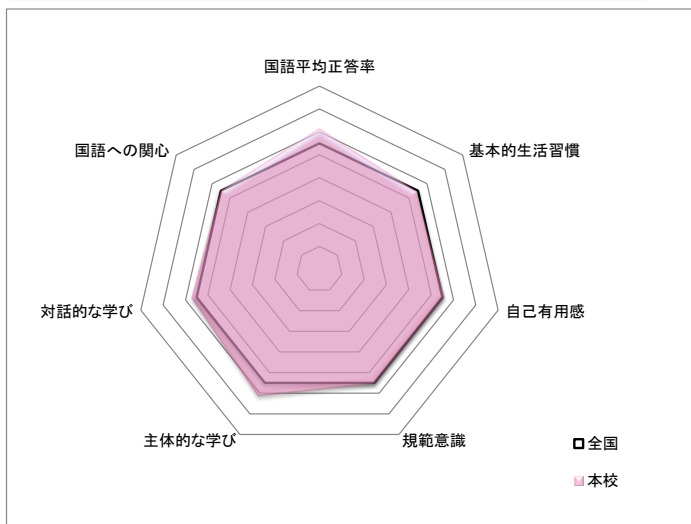
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

国 語	上 位 ← → 下 位			
	A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	D層 0～5問
松江第五中学校	43.4%	25.6%	18.4%	12.6%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

都の結果と比較して、本校の「平均正答率」は4ポイント上回っていた。全国の結果と比較して「主体的な学び」は全体的に高く、特に「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問の肯定的回答が高い。一方で「国語への関心」が低く、「国語の勉強は好きですか」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問の肯定的回答が低い。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣づくりのため、基本的学習習慣をまず整えること、スマートフォンやゲームなどの使用時間が家庭での時間の大半を占めないよう保護者の管理の協力をお願いする。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
 本校のA層の割合は東京都・全国の結果より高い数値が、B層の割合は都・全国の結果より低い数値がでている。昨年度の結果と比較するとB層の数値が減少しており、中間層の学力が全体的に伸びたと考えられる。「領域別の結果」においても、都・全国の数値を上回っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

A層の割合は都・全国の数値より高く、C層とD層の割合は都・全国より低い。学校として生徒の学力向上には貢献できているが、今後はC層とD層の割合を更に減らすために学習者全員が「分かる」「できる」授業を行うことが肝心である。

・基礎学力の保障

C層とD層の割合が都・全国の結果より数値が低くなっている。問題1一の漢字や3四の語句を問う問題で正答者数が少ないため、引き続き基礎の定着を図る活動を継続する。問3四、問4一、問4二の無回答率が他の問に比べて顕著である。「読むこと」や「書くこと」の分野では自分の考えを持たせるために発問や課題を工夫する。

・学習習慣の確立

この学年では、授業内小テストを行う、次回までの課題を毎回設定するなど、家庭学習の習慣が身につくよう教員側から促した。生徒が主体的に国語の学習を行う習慣を身につけられるよう、生徒の興味関心を引き出す授業づくりを行えるとい。

・AB層の育成

質問用紙の間(45)「国語の勉強は好きですか」、(47)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」が全国平均より低いため、授業の内容や課題で強制されて学習する生徒がいると考えられる。発表など対話活動や日常生活に即した資料の読み取りといった活動を増やすと生徒の意識が変わるのではない。